

経済指標レポート 第223号

(社)関西経済連合会 経済・経営グループ(担当:壺井)

Tel : 06 - 6441 - 0102 Fax : 06 - 6441 - 0443

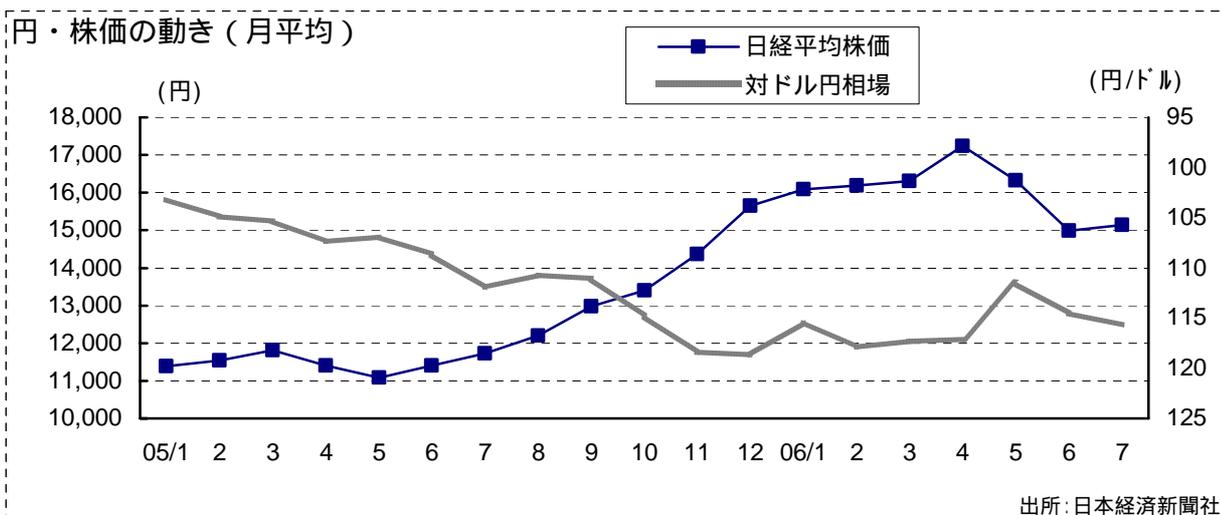
今月に入り 7 月の各種経済調査の結果が発表されてきているが、長期に渡る梅雨(近畿地方では平年より 11 日遅い梅雨明け)や、週末の雨天などの天候不順による一時的要因が響いた結果となっている。

天候不順の影響は家計部門を直撃する。近畿百貨店協会が発表した 7 月の京阪神地区の百貨店売上高(既存店)は、衣料品や飲食料品の売れ行きが鈍ったため、前年同月比 3.4%減の 1,561 億円となり、天候の影響が大きく表れた形となっている。

また、内閣府が発表した 7 月の「景気ウォッチャー調査」においても、街角の景況感を示す現状判断指数が前月より 0.7 ポイント低い 48.4 となり、景気のよし悪しの境界を示す 50 を 2 ヶ月連続で下回ったが、この調査においても天候の影響を受けた家計部門の指数の低下が示されている。

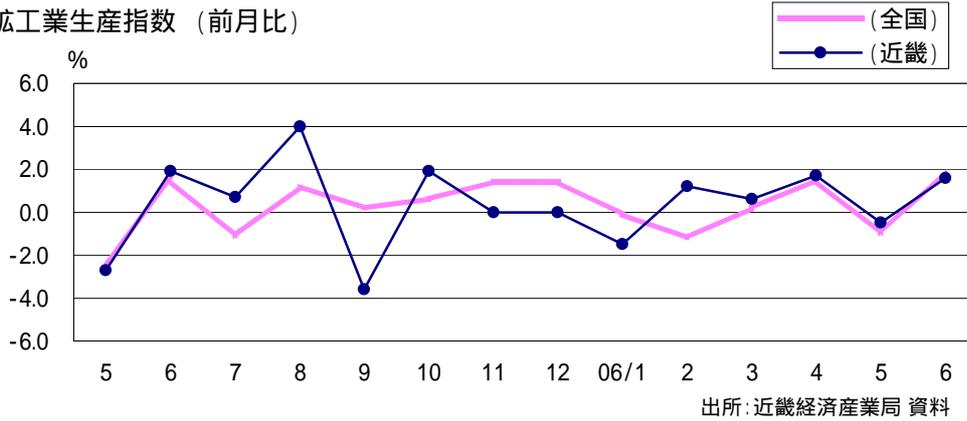
米国においても昨年、ハリケーン「カトリーナ」の影響により、被災地復興のための予算を 623 億ドルの補正予算を計上、06 会計年度の財政赤字が 4000 億ドルを超えるなど、天候を要因とする経済的損失は大きいものがある。景気を観測していく上で欠かすことのできない天候の影響。梅雨の期間が長かった今年の日本において、影響を受けた小売業などの業界が、梅雨明け後の酷暑を経てどのような業績となって今夏を締めくくったのか、注目していきたい。

< 各指標の動き >



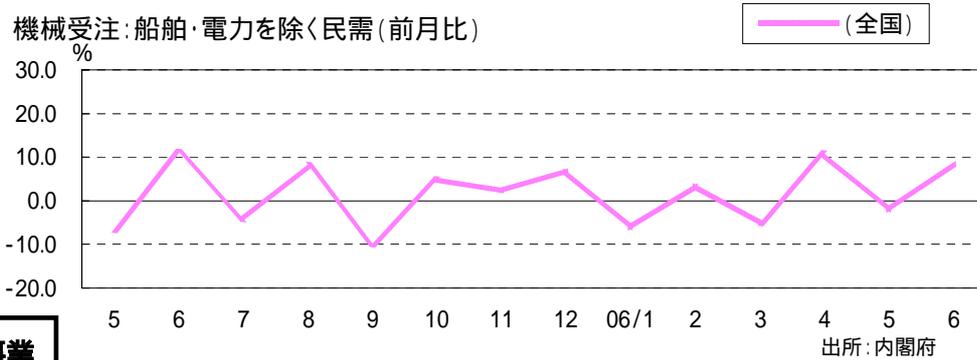
生産・機械受注

鉱工業生産指数 (前月比)



近畿は前月比 1.6% 増と 2 ヶ月ぶりに低下した。鉄鋼業、電子部品・デバイス工業、電気機械工業が増加している。

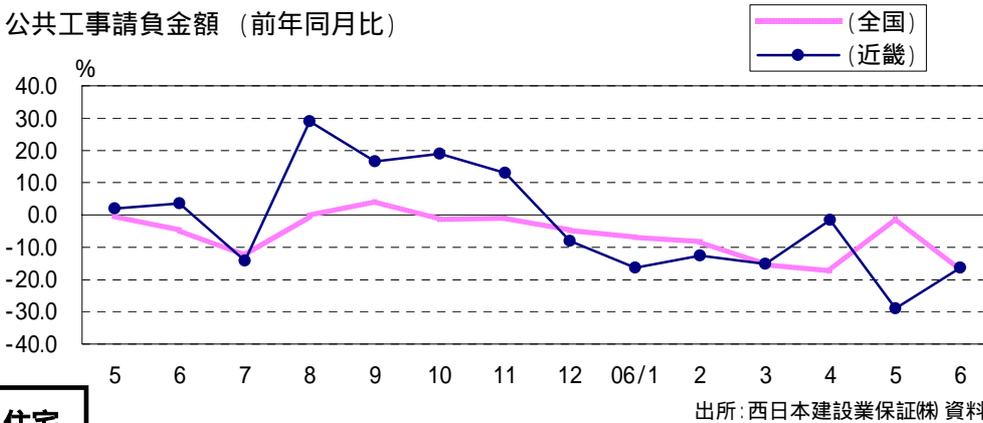
機械受注: 船舶・電力を除く民需 (前月比)



機械受注は前月比 8.5% 増となった。業種別の受注は製造業が同 25.6% 増、非製造業(船舶・電力を除く)は同 3.6% 減となった。

公共事業

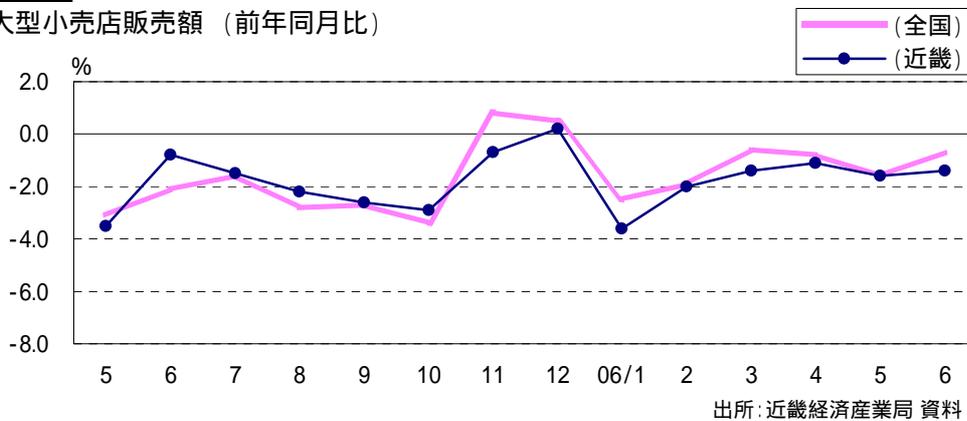
公共工事請負金額 (前年同月比)



近畿は前年同月比 14.0% 減。発注者別では「其他公共的団体」で大幅増となったものの、「国・市町村」で大幅減、「独立行政法人等」で 2 桁減、「府県」で微減となった。

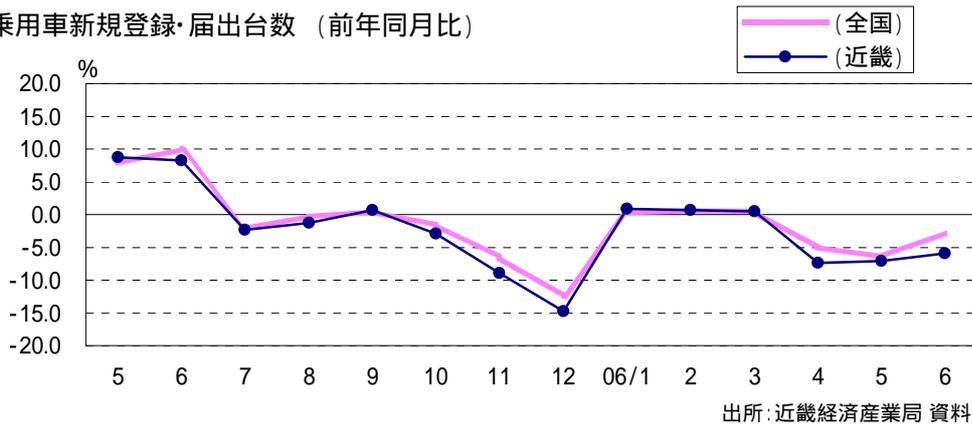
消費・住宅

大型小売店販売額 (前年同月比)



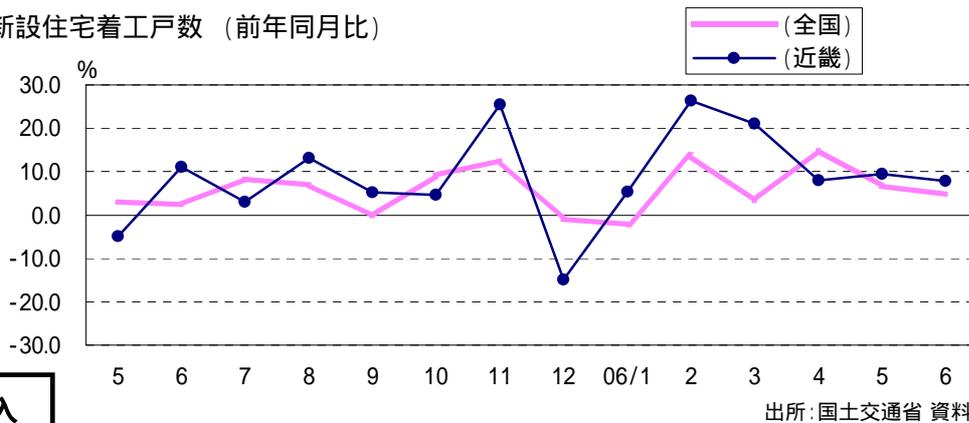
近畿は既存店ベースで前年同月比 1.4% 減と 6 ヶ月連続のマイナスとなった。天候不順のため、「衣料品」の主力の夏物が不調であった。

乗用車新規登録・届出台数 (前年同月比)



近畿は前年同月比 5.9%減と 3 ヶ月連続で前年を下回った。軽四車が 2 ヶ月ぶりに前年を上回ったものの、普通車が 12 ヶ月連続で、小型車が 3 ヶ月連続でそれぞれ前年を下回った。

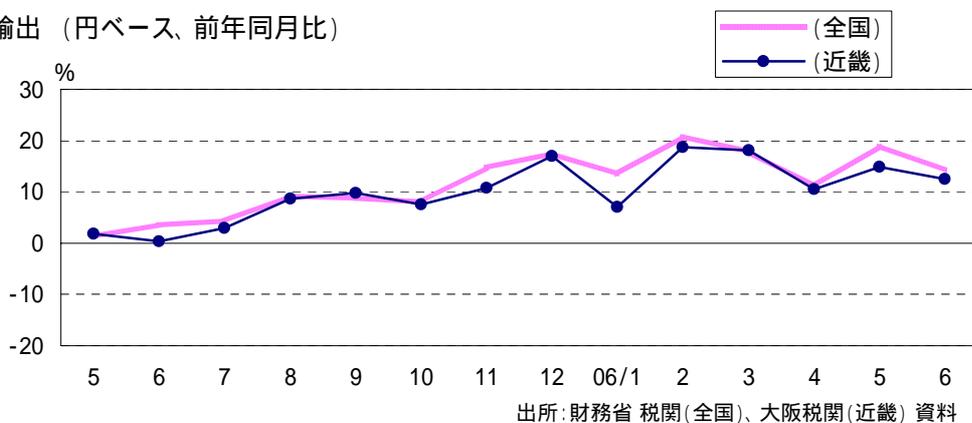
新設住宅着工戸数 (前年同月比)



近畿は前年同月比 7.8%増と 6 ヶ月連続で前年を上回った。持家が 2 ヶ月ぶり、貸家が 6 ヶ月ぶりに前年を下回ったものの、分譲住宅が 2 ヶ月連続で前年を上回った。

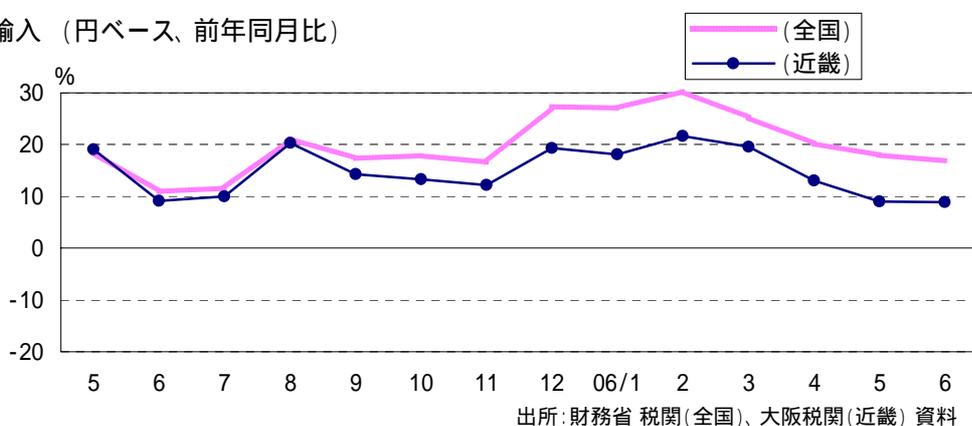
輸出入

輸出 (円ベース、前年同月比)



近畿は前年比 12.5%増で 52 ヶ月連続のプラスとなった。建設用・鉱山用機械が 44.0%増と好調。

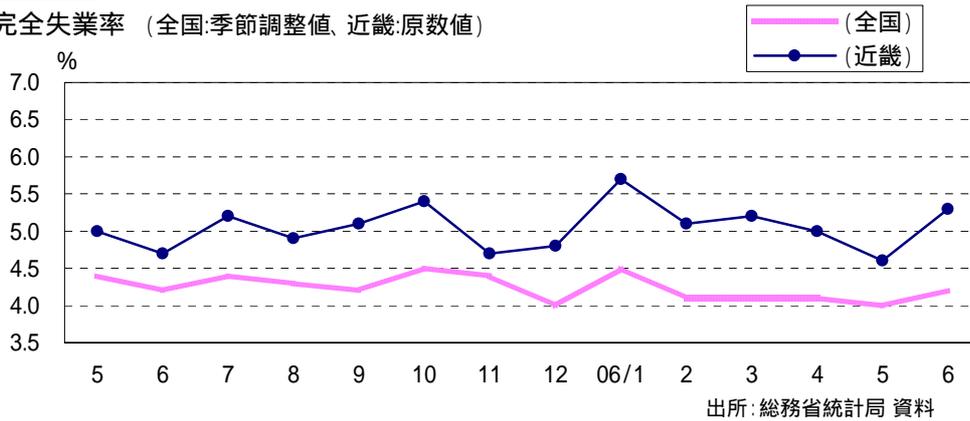
輸入 (円ベース、前年同月比)



近畿は前年比 8.9%増、30 ヶ月連続のプラスとなった。原租油、天然ガス・製造ガスの単価上昇が続く。

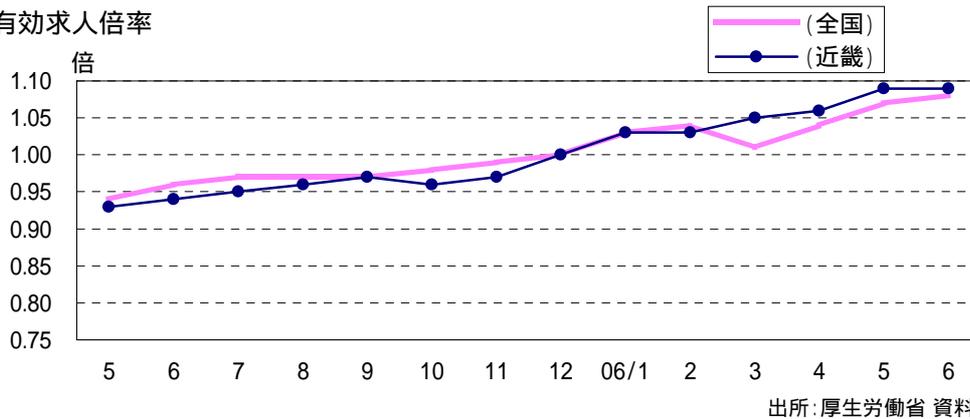
雇用・倒産

完全失業率 (全国:季節調整値、近畿:原数値)



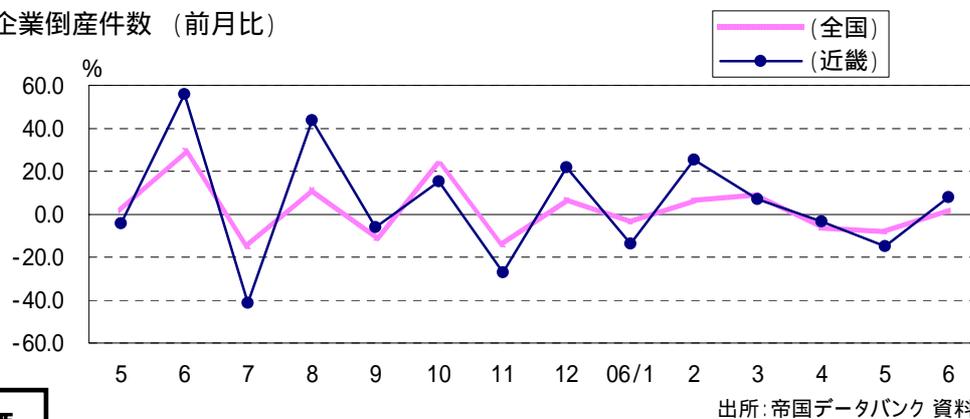
近畿の完全失業率は5.3%で、5ヶ月ぶりに前年を上回った。ただし、基調としては、引き続き緩やかに改善している。

有効求人倍率



近畿は前月と変わらず1.09倍となり、全国(1.08倍)を上回っている。新規求人倍率は1.62倍と2ヶ月ぶりに低下している。

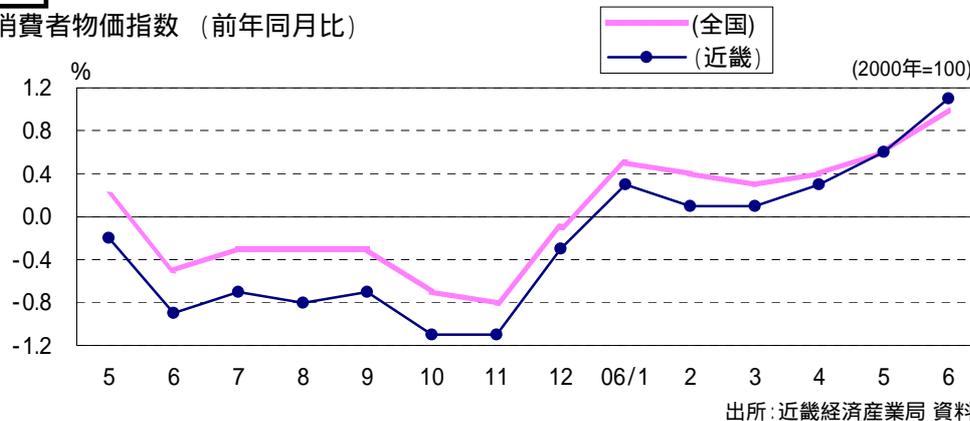
企業倒産件数 (前月比)



近畿の倒産件数は178件で前月比7.9%増。景気回復が続くも零細企業の倒産は頻発している。

物価

消費者物価指数 (前年同月比)



近畿は97.8で前年同月比1.1%増。「光熱・水道」「被服及び履物」「交通・通信」「教育」「食料」などが上昇している。